



【新改訳改訂第3版】ホセア書 6章 6節

「わたしは誠実を喜ぶが、いけにえは喜ばない。全焼のいけにえより、むしろ神を知ることを喜ぶ。」

原文直訳—「まことに、わたしは欲するのはゆるがない愛であっていけにえではない。

全焼のいけにえよりも神を知ること(を喜ぶ)。」

「誠実」「ゆるがない愛」-名詞「ヘセド」חֶסֶד | 「喜ぶ」「欲する」「好む」-動詞「ハーフェーツ」יָפֵץ

- 「ダアット・エローヒーム」は「神を知ること」です。ホセア書における重要な用語です。「ダアット」(דָּאָט)は、動詞の「知る」を意味する「ヤーダ」(יָדָה)の名詞形で、知識、識別、理解を意味します。特に、ホセア書における「ダアット・エローヒーム」は、神とイスラエルとの「夫婦の交わり」を意味しています。
- ヘブル語の「ヤーダ」(יָדָה)は、「知る」「悟る」「わかまえる」という意味ですが、創世記 4章 1節で「人は、その妻エバを知った」の「知った」は「夫婦としての親密な交わり、性交」を意味します。単に、「知る」と訳すのは不正確である場合が多いのです。なぜなら、「ヤーダ」は知的情報のみならず、性的、かつ情緒的な全人格的関係を含んだ意味を持っているからです。特定の人への「気づかい、献身、愛着、共感、あわれみ」といった情愛の念を含んだ意味をもっているのです。いくつかの例を列挙してみると、

(1) 出エジプト記 3章 7節

【主】は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。

わたしは彼らの痛みを知っている。・・・

⇒ここでの「知っている」とは、主がご自身の民の苦痛に同情し、心を動かされている」という意味。

(2) 出エジプト記 23章 9節

あなたは在留異国人をしいたげてはならない。あなたがたは、かつてエジプトの国で在留異国人であったので、在留異国人の心をあなたがた自身がよく知っているからである。

⇒ここでの「知っている」とは、在留異国人の気持ちを思いやり、察することができる」という意味。

(3) 箴言 12章 10節

正しい者は、自分の家畜のいのちに気を配る。悪者のあわれみは、残忍である。

⇒新改訳は「知っている」を、気を配ると訳しています。

(4) 詩篇 31章 7節

あなたの恵みを私は楽しみ喜ぶ。あなたは、私の悩みをご覧になり、私のたましいの苦しみを知っておられました。

⇒ここでの「知っておられた」は、「察して、あるいはあわれんでくださった」という意味。

- ホセア書 6章 6節の「神を知ること」とは、神と心をつにすること、神と共感すること、神との連帯、神を慕うことを意味しているのです。